

シンポジウムS4(公開)  
東日本大震災10年  
—防災概念の変革期における地理学—

S109

# 効果的な災害伝承とは —災害デジタルアーカイブの可能性—

内山琴絵(信州大)

# 【災害を伝える】

## 災害伝承の変化

### 災害資料



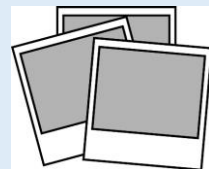
石碑



施設



記録集、写真集、  
文集など



写真など



語り部による伝承

収集

アーカイブ: 書庫や保存記録

災害アーカイブ: 災害の重要記録を  
保存・活用し、未来に伝達すること

これまでの災害アーカイブ: 災害を  
記録する写真集などが発行され、  
図書館などに保存・収集

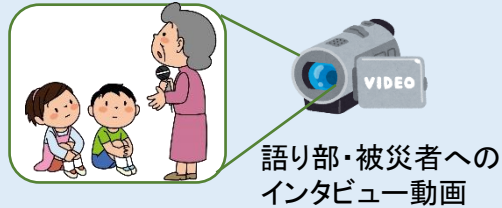


図書館・博物館

- 主に紙媒体やDVD. 記録の保存が主目的
- 情報発信力が弱く, 加工など扱いにくい

# 【デジタルアーカイブ構築の方法】

災害の記録・記憶・  
資料の収集



収集

デジタルデータとして  
記録・保存



デジタルコンテンツに  
加工して公開・発信

・発災当時から復旧・復興期の  
地域の姿をありのままにのこす  
・動画により、貴重な体験、被災  
や復旧期の人の気持ちなども  
臨場感をもって表現

保存  
活用

教育や地域防災で  
活用し記憶を継承



・当時の様子を復元して見る  
・情報量の多い動画で発災時の  
様子を臨場感をもって語る  
・インターネットを使った情報発  
信力(市民は誰でもいつでも知  
ることができ、学べる仕組み)

## デジタルアーカイブの利点

- 資料の破損・劣化防止
- 資料の複合的な活用
- 空間的、時間的な制約のない資料提供(学習教材・生涯学習への活用)
- データベース化による資料検索の容易性

# 【震災デジタルアーカイブ】

## 2011年東日本大震災



### 「復興構想7原則」

「大震災の記録を永遠に残し、広く学術関係者により科学的に分析し、その教訓を次世代に伝承し、国内外に発信する。」

→震災発生直後から震災資料の保存に高い関心

災害に関する記録を電子的に保存・公開する  
デジタルアーカイブが数多く構築

# 東日本大震災から10年

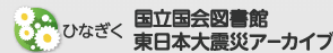
## • デジタルサイトの維持管理 問題

発災から8年  
日赤福島県支部の復興支援の現状

Eight years later: The current status of Recovery Assistance Programs by the JRCS Fukushima Chapter

東日本大震災と福島第一原発事故から2019年3月で8年が経過しました。日本赤十字社福島県支部は、海外の赤十字各社を通して寄せられた海外救済金を財源に、現在も関係する組織の協力を得ながら復興支援活動を継続しています。これらの活動がどのように変化して課題が浮かびあがったのか、さらに「その課題にどう対応しているか」を復興支援事業の活動記録と共に紹介します。

<http://ndrc.jrc.or.jp/>



[トップページ](#) > [お知らせ](#) > 陸前高田震災アーカイブNAVI閉鎖

### 陸前高田震災アーカイブNAVI閉鎖

2014/12/01

陸前高田震災アーカイブNAVIは、11月30日をもって閉鎖されました。


これに伴い、国立国会図書館東日本大震災アーカイブ（ひなぎく）から陸前高田震災アーカイブNAVIを検索するサービスは終了しました。

(参考) [検索対象データベース一覧](#)

<https://kn.ndl.go.jp/static/ja/2014/12/1.html>

**誰のために、何を残すのか、どう使うのかという  
目的が不明確なまま、ただ資料を電子データ化、  
保存するだけのアーカイブが乱立  
その一部は予算縮減とともに閉鎖される問題も**





## 2014年 長野県神城断層地震では、 明瞭な地表地震断が出現

**11月22日 22:08分頃 発生 M6.7**

震度6弱：長野市、小谷村、小川村

震度5強：白馬村、信濃町

住宅被害241棟，40棟以上の家屋が全半壊。

しかし，死者はゼロ，「白馬の奇跡」と呼ばれる。

→住民らによる迅速な安否確認と的確な救助活動

地域コミュニティのきずなの強さ，

「共助」の大切さを現した地震であったとされる。

→貴重な記録や教訓，記憶を後世に残し，次の災害に備える  
ためにできることはなにか？



# 2014年神城断層地震のデジタルアーカイブ

# 課題： 誰のために、何を残すのか、どう使うのか

## 2014年神城断層地震震災アーカイブ

誰？ 地域住民

何？

- 2014年地震 発災当時のありさま
- 復旧期・復興期の地域再建プロセス
- 地域の災害史

当時の写真、体験談を動画で保存、インターネットで公開。  
位置情報を付与、GIS上で管理したデータベース

どう使う？

住民主体の学びに活かす

- 学校における**防災教育**の学び
- **生涯学習**を用いた地域住民への語り継ぐ学び
- **地域資源**として復興ツーリズムでの学び

下記、HPにて公開中  
<https://kamishiro.shinshu-bousai.jp/>



## 2014年神城断層地震震災アーカイブ

白馬村・小谷村 信州大学

地図で見る災害の歴史

住所: 白馬村

登録情報 0 2 4 km

インタビュー (動画)  
災害発生時  
復旧・復興期  
その他

災害発生時の記録  
災害発生時の記録 (動画)  
復旧・復興期の記録  
その他

主観図  
白馬村震害情報  
白馬村洪水想定  
白馬村土砂災害警戒区域  
都市圏活断層圏 (白馬・大町)

基本地図

概要

①地震の翌々日、家屋が大きな被害を受け1階部分がつぶれてしまった。②県道33号線付近：神城地震によって道がひび割れ、マンホールが浮き上がってしまった様子。③倒壊してしまった建物。1階部分は跡形もなくつぶれてしまっている。

コンテンツID:01-004-000002

大きな地図で見る

インタビュー

震災時の状況などをインタビューしました。動画で閲覧できます。

詳しくはこちら

震災データアーカイブ

災害に関する情報 (写真、インタビューほか) が地図上で閲覧できます。

詳しくはこちら

アルバム

地震発生から、復旧・復興までの写真がアルバムとして閲覧できます。

詳しくはこちら

誰のために、何を残すのか、どう使うのか

## 具体的な収録内容

著作権の関係から写真省略

- ・発災時のその時、地域はどんな様子だったのか
- ・復旧期の様子はどうだったのか
- ・復興期を経てどう変わったのか

被災地を撮影した動画、写真を  
まとめた文書など  
計176項目の資料を掲載

日付

⑧2014年11月24日 堀之内

位置

神城地震による家屋被害。  
壁も崩れ、つぶれてしまった様子。  
建物が横にずれ道をふさいでしまっている。  
強い揺れだったということが分かる。

説明

→地図を見て場所から  
時制ごとに検索できる



誰のために、何を残すのか、どう使うのか

# アーカイブ収録コンテンツと特徴

## 内容

- ・被災地の写真、活動の様子(動画・写真)
- ・インタビュー動画

## 特徴

- ・Web-GIS(地理情報システム)を用いたデータベースを構築

キーワードで整理・検索

インタビュー



震災時の状況などをインタビューしました。動画で閲覧できます。

震災データアーカイブ



災害に関する情報(写真、インタビューほか)が地図上で閲覧できます。

アルバム



地震発生から、復旧・復興までの写真がアルバムとして一覽で閲覧できます。

時制で整理

発災・復旧・復興と時制ごとに記録内容を整理

→時期や内容から検索できる

空間で整理

記録のとられた位置情報を付加

→地図から検索できる



WebGISを基盤としたe-コミマップを活用

# 住民主体の学びに活かす

## 「学校教育での学び」 学校における**防災教育の学び**

小谷小学校, 白馬中学校 総合学習

- アーカイブから当時の被災状況を知る。
- アーカイブの看板から現地で当時と現在の姿を比較、被害や復旧過程を学び、発災時に自ら何をすべきか考え行動できる態度を育成。



## 「地域での学び」 **生涯学習**を用いた地域住民への語り継ぐ学び

- 地域住民にアーカイブを活用した学習(座学・フィールドワーク)を実施。「語りべ」の育成。
- 自治会等ともリンクして、アーカイブのGIS基盤を活用した支え合いマップ作り



アーカイブの利活用と  
自立的運用を目指した体制づくり



## 震災学習データベース基盤 (震災デジタルアーカイブ)

## 「復興ツーリズムでの学び」 **地域資源**としての学び

現実の空間  
遺構  
看板

デジタルな空間



- ツーリズム
- ガイドや語り部の派遣もこの活動とリンクさせ、学びの成果を結合、白馬の多面的な魅力発信に貢献



セミナーの様子



フィールドワークの様子



看板

誰のために、何を残すのか、どう使うのか

## 地域防災で活用できる仕組みづくり・コンテンツ開発

地域が自ら学び災害に備えるための災害アーカイブ  
地域住民主体の維持・利用

神城断層地震震災アーカイブをどう活用していくのか

観光・情報発信

アーカイブサポーターズ

教育

遺構の保存

地域防災

QRコード拠点

地域づくり

地域住民が必要とし、自立的に運用できる仕組みへ

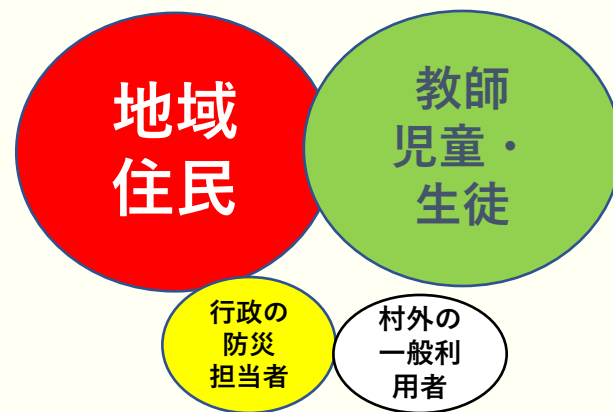




# 効果的な災害伝承のために

- 地域住民の利用を目的としたコンテンツ
- 時間的, 空間的ひろがり
- 3つの学び

アーカイブの利用・維持主体



- 課題
  - 継続的に運用するための仕組み
  - 成果をアーカイブに還元

- デジタルアーカイブは, 災害伝承のための仕組みとなりうる